

OMM JAPAN 2021 テクニカルディレクターレポート

8回目の OMM JAPAN は山梨県河口湖町、身延町の本栖湖周辺を舞台に開催されました。私自身にとっては富士山麓で活動することが多く、思い入れの強い場所でもあり、この場所で OMM JAPAN を開催できたことを大変嬉しく思います。参加者、開催地の皆様、運営スタッフ・ボランティアに感謝いたします。

私がテクニカルディレクターに就任し2回目の OMM JAPAN。前はこれまで通りのイベントを維持することで精一杯でしたが、今回はよりよいイベントにするべくいくつか変化させたこともあります。以下では①今回新たに試みたこと、②ルール違反に関する失格報告、③今後への提案 について記します。

① 今回新たに試みたこと

Straight Day2 の制限時間短縮

昨年一部コースで試験的に導入した Straight Day2 の制限時間短縮を全コースに適用し、1時間短縮した。これにより Day2 のコース距離を短縮、Day1 と Day2 のコースバランスが整った。また、上位の確定時刻が早まり、全クラス同じ時間に表彰式を行うことができた。さらに表彰式に残る人が例年より多く、イベントとしての盛り上がりを演出できた。全チームの帰還時刻を早めることになり安全管理上の懸念も軽減された。

競技エリアを狭めたことで Score Long Day2 はより多くのコントロールを巡れるようになった。2日目に高得点を狙えることで1日目からの逆転が起きる可能性もありゲームとしての面白が高まったともいえるが、場合によっては全部のコントロールを回ることができるスピード勝負となってしまう可能性もある。今後はほどよいバランスを取りながらコース設定を行う必要がある。

ライブ速報の導入

単日の結果についてはインターネットを利用したライブ速報を提供した。また Day2 上位のスタートリストもネット上で確認できるようにした。これにより即応性の高い情報を提供できただけでなく、コロナ対策として密回避にもつながった。また現地にはいない人に結果を見せることもでき、イベントへの注目度を高めることもできた。

可能であれば今回は PDF ファイルで随時提供した総合成績もライブ速報として提供できるように整えたい。またスマートフォンのセキュリティを満たせず結果を表示できないことが散見されたので、よりアクセシビリティの高い運用を目指したい。ただし通信環境が脆弱な場所ではサービスを利用できないので、印刷で対応する体制も維持する必要がある。

② ルール違反に関する失格報告

立入禁止エリア進入の自己申告

フィニッシュ後およびイベント終了後に 5 チームから立入禁止エリアに侵入したという自己申告がありいずれも失格扱いにした。また立入禁止エリアに立ち行っているチームがいたという報告も数件あった。他のルール同様、基本的にはマーシャルによる確認または本人たちからの自己申告がない限りは失格としていない。

なお立入禁止エリア（私有地や牧草地、横断不可の道路や柵、崖も含む）を設定している理由は、土地利用（通行許可）の問題、安全確保のため、コースレイアウト上の理由など様々だが、いずれの理由でも参加者が該当箇所を通行することで安定したイベント運営が困難になる。正直な申告には感謝するが、まずはそのエリアに入らないように地図を理解し、立入禁止エリアへ立ち入らないよう十分に心がけていただきたい。また多

くの場合は故意の違反ではなく、気づかずに進入していることがほとんどであろうから、主催者側でも事前の注意喚起、地図表記、現地案内の改善などで対応していく必要である。

SI チップ破損について

今回も SI チップの破損が 3 件発生した。SI チップは十分な耐久性のある機材であり世界各地のアウトドアイベントで利用されているが、物理的な衝撃があれば破損してしまう。SI チップの脱落防止・破損防止のための加工は、役員の提示があればすぐに見せられる条件で認めている。しっかり記録を残したいチームは OMM 準備工程にリストアップしておくことを勧める。

③ 今後への提案

GNSS (GPS) デバイス・高度計の利用について

昨年から安全確保の目的であれば GNSS (GPS) デバイスの利用を認めている。一方で引き続きナビゲーション目的での利用は禁止している。どこまでが安全確保目的でどこまでがナビゲーション目的かは線引きが難しいところで問い合わせを受けることもある。基本的には制限時間内に戻れないことが確実な場合、救援を呼ばなくてはならない場合、現在地が分からず崖や立入禁止エリアに侵入してしまう可能性がある場合などが安全確保目的であると捉えている。つまり順位がつかない状況がほぼ確実な段階での利用を想定している。

なお GNSS (GPS) デバイスとはスマートフォンやハンディ端末の利用だけではなく、GNSS (GPS) 内蔵時計で確認できる軌跡も含める。高度計についてはイギリスのルールに準じてこれまで明記をしていなかったが、日本の地形特性を考えると今後は GNSS (GPS) デバイスと同じ扱いとする必要を感じている。

これらを利用したか否かは基本的には参加者からの自己申告がなければ判断できないが、参加者が判断しやすいよう次回以降ルールの記述を改めることを提案したい。

エントリー条件確認の徹底

今回、ペアで離れて行動する、SI チップを返却しないという OMM の根本となるルール違反が散見された(詳細は安全管理マネージャーレポート参照のこと)。特に **Straight E** に参加するチームでこのような違反があったことは主催者を落胆させた。**Straight E** に参加できるチームは OMM の精神を十分理解し、その実績が認められたチームに限られる。**Straight E** では参加条件を満たしているかより詳細な確認を行い、かつ重大な違反があったチームは今後の参加に関してペナルティを与えるなどの厳重な対応を進めたい。

ルールを知ってもらうための努力と文化の醸成

前述の通り、ルールに違反することで重大なトラブルが発生する可能性がある。まずは主催者が、すべての参加者にルールを知ってもらう、ルールを理解してもらう、ルールを守ってもらうための継続的な努力が求められる。例えばルール解説動画の作成、OMM 講習(オンライン説明会)の開催などは有効な手段であろう。

さらに参加者同士で声を掛け合って注意し合う、教え合う文化の醸成もこのイベントを長く継続していく上では必要ではないだろうか。OMM は順位をつけ、上位を表彰しているのでレースイベントとして捉えている人も多いが、レースとしても楽しめるチャレンジ企画というのが本来の趣旨である。急ぐことも大事だが、皆が安全を確保するマーシャルでもあるという意識を持って臨んでいただけることを願う。

テクニカルディレクター

小泉 成行